

エンカウンター（ENCOUNTER）

第 42 号

平成17年10月20日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 045-912-1960

スポルジョン「朝ごとに」より（3）

3月3日

私は苦しみの炉をもってあなたを試みた。（イザヤ 48・10）

試みの中にある信者よ、この「私は苦しみの炉をもってあなたを試みた」という御言葉をもって自らを慰めよ。この御言葉は、炎の激しさををも和らげる春雨のようではないか。しかし、この御言葉は熱を通さない石綿のよろいなのである。

患難よ来たれ。神が私を選ばれたのである。貧困よ、お前は私の戸口まで押し寄せている。しかし神は既にわが家の中におられるのだ。神が私を選ばれたのである。この涙の谷でどのようなことがこの身に降りかかろうと、私は神に選ばれたことを知っている。

主にある友よ、あなたが今、大きな慰めを必要としているならば、人の子があなたと共に炉の中におられることを思い出せ。あなたの静かな部屋に、これまで見たことはないけれど、常にあなたを愛しておられる方が、傍らに座しておられる。たとえあなたが気づかなくても、その方は苦難の只中にあるあなたのためにベッドを設け、枕を整えられる。あなたは貧しい。しかし寂しい家の中に、いのちと栄光の主が、しばしば訪れられるのである。あなたを訪ねるために、彼はよろこんで荒れ果てた場所に来られる。彼はあなたに愛着を覚えておられる。

彼のみ顔を見ることが出来なくても、あなたは手ざわりを感じることが出来る。彼の御声を聞かないのか。死の陰の谷の中であっても、「恐れてはならない。私はあなたと共にいる。驚いてはならない。私はあなたの神である。」と言っておられるのを。

クリスチャンよ、イエスがあなたと共におられる。火のような試練の中でも、主の御臨在はあなたの慰めであり、保障である。彼は己の者として選ばれた者を、決して捨て去るようなことはなさない。

「恐るな、私はあなたと共にある」という御言葉は、「苦しみの炉」の中にある選ばれた者にとって力強い約束の御言葉である。それ故キリストにしがみついて、次のように言おう。「水の中でも火の中でも、もしイエスが導かれるならば、私はどこへでも従って行こう」と。

3月4日

私の恵みはあなたに対して十分である。

(第2コリント12・9)

神の恵みは、信者の貧困と試練の中に立証され、あがめられるのである。聖徒たちはいかなる逆境にも耐える。彼らはすべてのこと相働きて益となり、外見上悪と見えるものの中から、真の祝福がいつかほとばしり出ることを信じ、神が速やかに艱難の中から救い出されるか、神が適当と思われる間、彼らを困難の中に支えられることを信じる。聖徒の忍耐は神の恵みを立証するものである。

海のまん中に灯台があるとしよう。静かな夜ならば、果たして灯台の建築が強固であるかどうかを知ることができない。嵐がたけり狂った後、初めて灯台がそれに耐え得たかどうかを知る。

聖霊の働きも同様である。もし怒涛の中に取り囲まれていなかったら、私たちは聖霊の働きが真実であることを知り得ないだろう。また風が出なかったならば、その強固であることを知ることはできない。神の傑作となる人は、困難の中にも惑わず、毅然として立つ人々である。

「おじまどう叫びの中に

勝利を信じ泰然と立つ」

神の栄光を表わそうとする者は、多くの試練を受けることを初めから覚悟していなければならぬ。多くの戦いを経ずして、主の御前に輝く者となることはできない。もしあなたの道が険しければ、あなたが全能の神の恵みを表わしうることを信じ、それを喜べ。

神があなたを見捨てるなどとは、夢想だにしてはならぬ。そのようなことは唾棄すべきである。今日まであなたにとって十分であった神は、最後まで信頼すべき方である。

3月14日

立っていると思うものは、倒れないように気をつけるがよい。

(第1コリント 10・12)

自己の恵みを誇らず、むしろキリストとその力に誇りと信頼を置け。それによってのみ、あなたは墮落をまぬがれることが出来る。

さらに多く祈れ。聖き讚美のためにより多くの時を過ごせ。さらに熱心に、不断に聖書を読め。あなたの生活に細心の注意を払え。一層神に近く生きよ。最上の模範を選び、あなたの対話に天国の香りあらしめよ。あなたの心を他の魂に対する愛をもって香らせよ。

他の人があなたを見て、あなたがイエスと共にあり、その教えを受けた者であることを知るように生活せよ。そして愛する主が「昇りてきたれ」と言われる幸いな日がやってきたとき、「あなたは戦いを立派に戦いぬき、走るべき行程を走りつくした。今や朽ちぬ義の冠があなたを待っている」という主の御声をあなたが聞くことができるように。

主にある友よ、心して歩め。清いおそれとおののきをもって進め。イエスにのみ信仰と信頼を置いて進め。そして常に「約束に従ってわれを支えたまえ」と祈れ。彼のみが「あなたがたを守ってつまずかない者とし、またその栄光の前に傷なき者として、喜びのうちに立たせて下さる」のである。

3月22日

そして少し進んで行き、うつぶしになり、祈って言われた。

(マタイ26・39)

救い主(イエス)の試練のときの祈りに、私たちが教えられる幾つかがある。すなわち、それは孤独なる祈りであった。主は3人の愛する弟子たちからさえ離れられた。主にある友よ、しばしば単独の祈りをせよ。試練のときこそ特にそうすべきである。家拝、友との祈り、教会での祈りは尊いが十分ではない。最上の香料はあなたの個人的な礼拝の香炉の中 神のほかは聞く者のない場所 で香るものである。

それはへりくだった祈りであった。...

へりくだりは祈りに確かな足場を与える。神が適当なる時に私たちを高められるように、私たちが自らを低くするのでなければ祈りが神に聞かれる見込はない。...

「父よ私の叫びを聞いて下さい」と言うのを恐れるな。この祈りは忍耐強い祈りであった。主は三たび祈りたもうた。祈りが聞かれるまでは止めてはならない。初めの願いが聞かれなかったにもかかわらず、執拗に懇願を続け、遂に聞き入れられたやもめのごとくあれ。祈りつづけよ、そして感謝の思いのうちに待て。

最後にそれは、委ねきった祈りであった。「しかし、私の思いでなくみこころのままになさってください」とある。あなたが譲るならば、神もまた譲りたもう。祈りを、神のみ手に委ねよ。神はいつ、いかにして、何を与え何をさし控えるべきかを知りたもう。それゆえ熱心に、執拗に、しかも謙そんと信頼をもって祈るならば、必ず聞かれるのである。

4月5日

シモン.....を捕らえて十字架を負わせ、それをになってイエスの後から行かせた。(ルカ 23・26)

イエスが十字架を負われるのは、あなたが十字架を逃れるためではなく、むしろそれに耐えるためである。キリストはあなたを罪から除かれる。しかし悲哀から除外されるのではない。...

主イエスの十字架をになうのはなんと喜ばしい事だろう。あなたは主の後から十字架を運んでいるのだ。あなたは素晴らしい道ずれがある。歩む道には主の御足跡が印され、その重荷には主のみ御血に彩られた肩のしるしがある。それは主の十字架である。そして、主は羊飼いが羊に先立っていくように、あなたの前を行かれる。日々あなたの十字架を取って彼に従え。あなたはこの十字架を主と共にになっていることを忘れてはならない。...あなたはただ十字架の軽い方をになうだけであり、重い方はキリストがになって下さるのである。

更に覚えたいことは、シモンが十字架をになったのは極めてわずかの間であったが、それがため彼は不朽の名誉を得た事である。私たちの場合十字架をになうのは極めてわずかの間であるが、その後、栄光の冠を受けるのである。おずることなく十字架を慕い、それが「永遠の重い栄光を溢れるばかりに得させる」ことを思い、十字架を尊ばねばならない。

4月16日

キリストの尊い血 (第1ペテロ 1・19)

十字架の下に立ち、尊い紅の血潮のしたたる両手両足とその脇腹を見よ。その御血潮の尊いのは贖罪の効力があるためであり、それにより民の罪はあがなわれ、律法の下から解き放たれ、神と和解させられて一つにされるからである。

また御血潮はきよめる力を持つ。「御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちをきよめる。」「たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。」

信者はキリストの御血によりきよめられ、一点のしわもしみもそのたぐいもとどめない。...

その血はまた、信仰を持続させる力を持つゆえに尊い。血が注がれるゆえに破壊の天使から免れ得る。神が私たちを見のがしたもう真の理由は、その血を見られるためであることを覚えよ。

信仰の目のかすむ時ここに慰めがある。それは神の目は常に変わらぬからである。...

イエスの尊い血によって戦うものは、敗北を知らぬ武器によって戦うものである。

イエスの血よ！ 罪はその前に滅び去り、死もまた力を失い、天国の門はその前に開かれる。

イエスの血よ！ 私たちはこれにより勝利に勝利を重ねて前進する。私たちがその力に信頼する限りは！

4月17日

あなた方が近づいているのは……アベルの血よりも力強く語るそそがれた血である。（ヘブル 12・22, 24）

愛する友よ、あなたはそそがれた血潮に近づいたか。この問いはあなたが教理の知識、儀式の遵守、またはある種の経験に近づいたか否かではなく、イエスの血に近づいたか否かである。イエスの血はあらゆる生ける信仰の生命である。

イエスのもとに実際にあなたが来たなら、私たちはいかにして来ることができたかを知る。聖霊がねんごろにあなたをたずさえて来られた。あなた自身のなんのいさおしにもよらず、そそがれた御血に近づいたのである。罪深い失われゆくあなたが、その血を受けようとして近づいた。その御血潮のみがあなたの永遠の希望である。…

私たちは罪にけがれている。しかし救い主は目を上げて彼を仰ぎ見るよう命じられる。そして血潮したたる傷を見る時、一滴一滴が「すべては終わった。私は罪を滅ぼし、永遠の義をもたらした」と叫ぶ。ああ尊い血の甘美なるささやきよ！ もし一たびそそがれし血潮のもとに来たならば、あなたはさらに常にそこへ来たいと欲するだろう。そこで全生涯が「イエスをながめる」ものとなり、行為はことごとく「主のみもとに来る」との言葉で要約されるようになるだろう。

私は主のみもとに来ただけに止まらず、常にみもとへ行く。もしあなたがそそがれし血潮に来たならば、日ごとにそれに近づく必要をおぼえるだろう。…

4月23日

しかし、わたしたちを愛してくださった方によって、わたしたちは、これらすべての事において勝ちえてあまりがある。

(ローマ8・37)

あなたの罪をキリストの十字架に持ち来たれ。そこにおいてのみ古き人は十字架につけられることができる。私たちは彼とともに十字架につけられた。罪と戦う唯一の武器はイエスの脇腹にさした槍である。

例えばあなたが短気をなおしたいと思うならば、いかにして成し遂げるか。あなたはそれをイエスのみもとに持ち行くという正しい方法を実行しなかったのではなからうか。あなたはいかにして救われたか。私はそのままイエスのもとに行き、私を救って下さることを信じて救われた。短気をなおすにもこれと同じ方法をとらねばならぬ。これが唯一の方法である。短気をたずさえて十字架に行き、イエスにこう言わねばならない。「主よ、あなたは私を短気から救って下さることを信じます」と。

あなたは貪欲か。また世的なことに巻き込まれるように感ずるか。あなたがこの悪と戦いたいと思うなら戦ってもよい。しかしもしそれが常に陥りやすい罪なら、キリストの血による以外に決して救われる事ができない。それをキリストのもとにたずさえ、彼に「主よ、私はあなたを信じます。あなたはご自分の民を罪から救われるゆえにイエスとなえられています。主よこの罪から救ってください」と言え。

キリストに頼まず難行苦行しても益はない。あなたの祈り、悔改め、そして涙 これらすべてをよせ集めてもキリストなくしては何にもならぬ。